

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(2月19日～2月25日)

2024年3月5日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●リトアニアがベラルーシとの国境検問地点2か所の閉鎖を決定(2月21日)

●下院・地方議会議員選挙(2月25日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●議会選挙の投票所での発言

(1) 今次選挙に対する評価

・世界のどこにもベラルーシほどオープンかつ誠実で、原則に則った選挙などない。

・国民の大多数が当局を信頼していると思う。ベラルーシにおける選挙は粛々と行われており、いかなる衝突も反乱も、その試みすらない。

・欧州安全保障協力機構(OSCE)の選挙監視団を招待しなかったのは、そのような要望がなかったため。それならなぜ我々が彼らにすり寄らなければならないのか。これは我々の選挙だというのに。

(2) 2025年の大統領選挙

・反体制派が社会を動揺させればさせるほど、自分(ルカシェンコ大統領)はふるって出馬する。

(3) ウクライナにおける選挙

・ロシアは真摯にこの紛争を平和的に解決する方針であり、今は特にそう。北大西洋条約機構(NATO)の連中は、ロシアが今後、現在生産中のおびただしい数の最新の弾薬やその他の兵器を使用するということを考えるべき。

・ウクライナは今ロシアとの交渉に応じなければ、ウクライナ全土を失うことになる。ウクライナを守るため、今すぐ交渉しなければならない。

・クリミアはクリミアであり、ここはロシアの地、ロシアの領土であり、ロシア人がそう考えているとおりである。

(3) ベラルーシ・ロシア関係

・ベラルーシとロシアは、2つの主権を持つ独立した国家であり続けなければならない。ロシアでもベラルーシでも、両国の統一は支持されない。そのようなことをしても得にはならず、ただ悪くなるばかりだ。

(2月25日 大統領府)

【外交】

●リトアニアが国境検問地点2か所の閉鎖を決定

・リトアニア側は3月1日以降、ベラルーシとの国境検問地点のうち以下2か所の閉鎖を決定。

①ラヴォリシュケス(ベラルーシ側「コトロフカ」)

②ライガルダス(「プリヴァルカ」)

・3月1日以降も、以下2か所は運用予定。

①メディニンカイ(「カメンヌイ・ログ」)

②シャルチニンカイ(「ベニャコニ」)

(2月21日 リトアニア公共放送局「LRT」)

●アレイニク外務大臣のジンバブエ訪問(2月21日～23日)

(1) ムナンガグワ大統領との会談

・農業、産業協力、食料生産、保健などの経済分野での連携に焦点が当てられた。

(2) シャワ外務・国際貿易大臣との会談

・二国間の貿易・経済協力における大きな進展と、産業・農業・保健・教育における共同応用プロジェクトの実施が強調された。

・アレイニク外務大臣は、ベラルーシが、ユーラシア経済同盟(EAEU)の有望な市場の枠組みの中でのジンバブエの関係拡大を支援する用意があり、また南部アフリカ開発共同体(SADC)におけるジンバブエの議長国としての利点を活用することに関心があると発言。

(3) その他

・ベラルーシ・ジンバブエ間の協力に関する合同常任委員会の第1回会合に出席。会合の結果、共同声明と議定書、産業・農業分野の分野別の活動の最終報告書に署名。

(2月21日～23日 外務省)

●チェコはベラルーシ国民への査証発給を無期限に停止

(2月22日「ゼルカロ(鏡)」)

●対ベラルーシ制裁の強化

(1) 英国による制裁

・新たに2社(国営「精密エレクトロメカニクス工場」と、半導体・電子機器製造企業「プラネル」社)を制裁対象に追加。

(2) 欧州連合(EU)による制裁

・新たに3名(デミドフ・ノヴォポロツク市執行委員会委員長、シェフツォフ・ベラルーシ赤十字事務総長、タライ「アレクセイ・タライ財団」代表)と3社を制裁対象に追加。

(3) 米国による制裁

・新たに2名(ピニギン「第558航空修理工場」、タライ「アレクセイ・タライ財団」代表)、及び1社(「第558航空修理工場」)を制裁対象に追加。

(4) オーストラリアによる制裁

・新たに2名(シェフツォフ・ベラルーシ赤十字事務総長、モロゾフ国営「ベラルーシ鉄道(BelZhD)」総裁)と3社を制裁対象に追加。

(2月22日 英国外務省、23日 欧州委員会、24日 オーストラリア外務省)

【内政】

●レドニク元「ベラルーシ社会民主党」党員が服役中に死去

・同氏は2022年4月に拘束され、ルカシェンコ大統領に対する中傷の有罪判決を受け、服役中であった。

・同氏は63歳で、消化管や心臓に疾患を抱えていた。死因は心停止とされている。

(2月20日「ゼルカロ(鏡)」)

●2月23日現在の政治犯の数は1,419人

(2月23日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

●ミンスク市で約40人の建築家が拘束

・「ナシャ・ニヴァ」は、2020年の大規模抗議活動に参加したことが原因だと指摘。建築家の家族も含むと、

拘束された人々は70人にのぼった。

・このうちの1人は、国外からの帰国後に拘束された。

(2月24日「ナシャ・ニヴァ(我らの家)」、「ゼルカロ(鏡)」)

●下院・地方議会議員選挙の結果

(1) 選挙結果

・投票率は72.98%。

・2月25日の投票日当日、米国・オーストリア・スウェーデンが非難声明を発出。

(2) 選挙前夜の動き

・投票日前日の24日、投票所に隠しカメラを設置しようとしたとして、モギリョフ州の男性1名が拘束された。男性は、「破壊的 Telegram チャンネル」の管理者であり、人々に街頭に出て「治安を乱す」よう促していたとされている。

・同日、「BЕLPOL(元治安機関職員による内部告発団体)」は、不正選挙に反対する旨を訴えるチハノフスカヤ氏のビデオを、ショッピングセンター、スーパーマーケット等2,000以上のスクリーンで放送したと報告。

・25日、チハノフスカヤ氏のビデオが放送されたスクリーンを管理する会社の従業員が拘束された。

(2月24日「ゼルカロ(鏡)」、25日 中央選挙管理委員会、「ゼルカロ(鏡)」)

【軍事・安全保障】

●国防省による駐在武官団に対する定例ブリーフィング

・ベラルーシ軍の防衛力整備は、確実な防衛にとって十分かという観点からのみ実施されており、いずれかの国家に対抗することを目的としたものではない。ベラルーシ軍は近隣諸国で見られる軍拡競争には関わらない。

・軍事面での協力の中心を欧州から別の地域へと移し、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国との関係を活性化。同時に、欧州通常勢力条約(CFE)及び関連文書に規定された義務や制限を引き続き遵守。

・二国間でも多国間でも、欧州全体の安全保障に関して具体的に対話し交渉する用意あり。

(2月21日 国防省)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(2月19日～2月25日)

- ・リトアニア国境警備局は少なくとも2人を阻止。
- ・ラトビア国境警備隊は少なくとも40人を阻止。
- ・ポーランド国境警備隊は少なくとも84人を阻止。

(2月20日～2月16日 Pozirk)

【治安・犯罪】

●2023年、少なくとも46人の未成年者に対し政治的理由により有罪判決

(2月20日 Pozirk)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

(1)不正選挙への反対

・チハノフスカヤ氏は、下院・地方議会議員選挙は不正選挙であると訴えるビデオを作成。同ビデオは「BELPOL」によりベラルーシ各地の公共施設等で放送。

・また、投票日当日の25日には、オンラインマラソン「新しいベラルーシを選ぶ」で、政治犯の釈放に向けた団結を呼びかけ。

(2)ウィーン訪問

・欧州安全保障条約機構(OSCE)議員会議に出席し、演説。

・シャレンベルク・オーストリア欧州・国際担当大臣と会談。

(2月25日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

【統計等】

●2023年のポーランドへのベラルーシのたばこの密輸は約600万ドル(前年比12倍増加)

(2月23日 Pozirk)

(了)